

将来を担う子どもたちが希望の持てるまちづくり戦略を



自由民主党議員団
森 竜子 議員

まちの魅力で人口流出に歯どめを

問 大牟田らしさや魅力を発揮するのが地方版総合戦略であると考えているが、本市における総合戦略骨子案に独自性をどう盛り込んだのか。

答 ユネスコスクールによるESDの取り組みや世界遺産を活用した取り組み、認知症ケアなどの高齢者施策、災害が少なく温暖な地域であることや3大プロジェクトによる都市機能などが、本市の強みと思っている。

人口減少社会への対応を図るには、これらの強みや特徴を活かし、地域性のあるものとして本市の戦略を策定したい。

創生のチャンス最大限活かして

問 国からは、試験研究機関等政府関係機関の地域移転や子育て世代包括支援センターのモデル地区、地域経済イノベーションサイクル施策など、さまざまな施策が提案されているが、本市にはこれらを活かした計画、また検討はなされたのか。

答 機関施設の移転については、県から紹介等がなかった。

子育て世代包括支援センター整備については、今後検討していく

課題の一つ。地域経済イノベーションサイクル施策については、どのような地域資源があるのかを全庁的に十分検討していく必要があると考える。

問 井筒屋跡や新勝立町の帝京大学跡、移転予定の大牟田北高、商工会議所跡、新大牟田駅周辺の開発も含め、有効な活用については、まちづくりの観点から行政と民間が一体となり、総合戦略の中で検討すべきではないか。

答 基本構想などにも土地利用の考え方を示しており、どのような施設、どのような機能を誘導するのかなど、検討しながら進めていきたい。

商業振興は行政がエンジン役になって

問 商業統計調査では、大型店が出店し新たな雇用が生まれたにもかかわらず、従業員数、事業者数とも激減しており、地元商業の衰退が数字にも表れている。新栄町駅前市街地再開発事業地区に隣接するホテルが建て替えを検討しており、やり方によっては活性化の目玉になると考えるが、

答 時期的には同じタイミン

グになるようなので、事業者が行う部分、再開発準備組合が行う部分をあわせ、地域の一体的開発ができればと思う。

次世代に選ばれる子育て支援

問 学童保育所・クラブは、施設によって定員いっぱいの所もあるので、今後の受け入れ体制の強化を図るべきでは。

答 対象が拡大されたこともあり市内全体として21名の待機児童が発生している。

施設整備の前倒しも含め、検討を進めている。



元気いっぱい子どもたち

問 幼稚園の就園奨励費補助については、保育料の国基準額からの軽減率相当分を市単独費で上乗せをされているが、来年度の継続については、どう考えているのか。

答 現行幼稚園の新制度への移行の状況、国の動向や、近隣市の取り組み状況等を踏まえながら、次年度の予算編成の中で総合的に検討していきたい。

再発言 保護者の負担軽減も次世代に選ばれる子育て支援の一つ。新制度に移行した幼稚園や認定子ども園などの保育料についても、国の基準額から市独自で軽減した設定をなされているが、軽減が継続されるよう要望する。